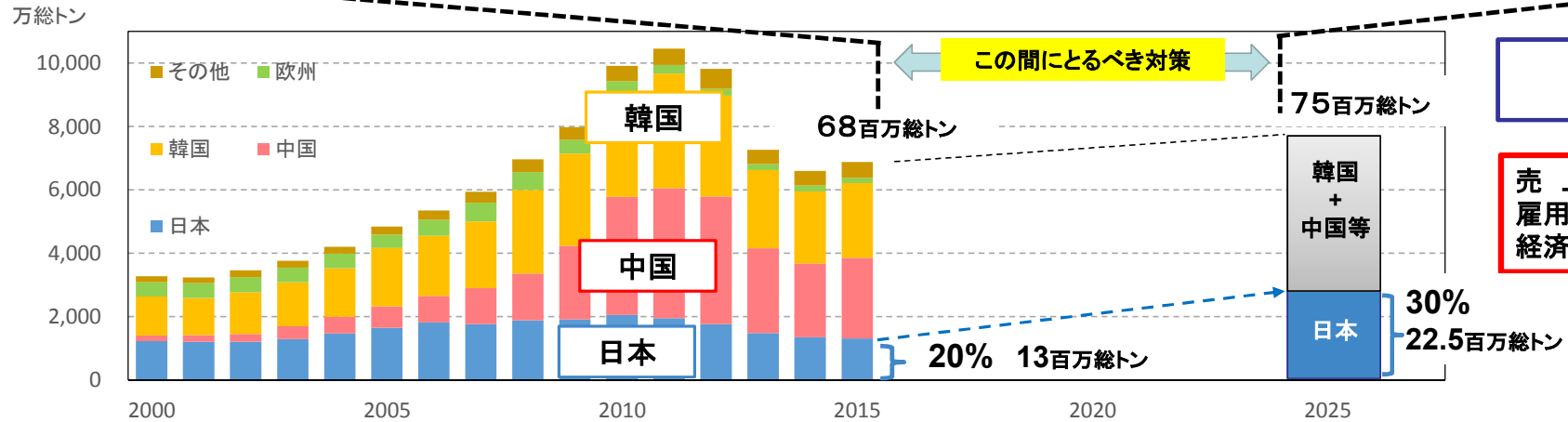


個別目標

- 省エネ性能20%優位を維持【2016～2025】
- 新船型開発期間を半減【2025】
- 現場生産性 50%増【2025】
(一人当たり建造量)
1989年: 68 総トン/人
2014年: 170
⇒2025年: 250
- 燃料のムダ使い解消【2020】
- 故障による不稼働をゼロ【2020】
- 大学造船系学科からの採用 1,500人(50%増)【2016-2025 計】
- 地域共同技能研修 10年で5,000人(50%増)【2016-2025 計】



総合目標

2025年のシェア 3割を獲得

売上 6兆円
雇用増 1万人※1
経済波及効果 45兆円※2

アウトカム

韓国 + 中国等
 日本

※1: 2014年の12.5万人が建造量増加により、13.5万人に増加。
 ※2: 経済波及効果は、10年間の売上増加分の累積に経済波及効果係数2.5を乗じて試算。